

より近く より深く より前へ

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA

県本部通信

4

2017 April
No.180



群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
許諾第28-181111号



私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

事業のうごき 4

JA群馬担い手サポートセンター

- JA生産販売計画の実践支援
- 営農指導機能強化支援
- 農業経営管理支援
- 法人等担い手支援
- 出向く営農支援体制の強化と活動支援
- JA-TACの人材育成
- JAの野菜振興取組支援
- 農産物の安全・安心対策
- TACシステム操作研修会(4月25日)
- トレサビ(生産履歴記帳支援) システム基本操作研修会(4月13日・18日)

畜産農産部

酪農畜産課

- 生乳の計画生産の推進
- 初妊牛導入推進
- 素牛導入推進
- 種豚導入推進
- 渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進(優良ET卵産子の活用促進)
- JA全農ぐんま育成牛センター開所式(3月30日)

米麦特産課

- こんにやく荒粉・精粉販売推進(入札の実施)
- きのご種菌当用推進
- 平成29年産米の生産・集荷・販売方針並びに出荷契約及び大豆出荷契約、平成30年産麦の出荷契約推進会議(4月25日)

園芸部

園芸販売課

- 共計ほうれん草販売(周年)
- 共計チンゲンサイ販売(周年)
- 共計味にら販売(周年)
- 共計山うど販売(4月末日迄)
- 共計ふき販売(5月末日迄)
- 共計ブリックスナイン販売(6月末日迄)
- 県統一規格共計きゅうり販売(7月末日迄)

販売促進課

- 春野菜販売促進
- もやし類・加工野菜販売促進
- 花き類販売促進
- 春野菜フェア
- 良いきゅうりの日フェア(4月19日前後)
- JA 邑楽館林コープぐんま収穫体験(4月1日)
- 共計ブリックスナイン消費宣伝(4月下旬)

園芸資材課

- 春夏用出荷資材予約推進(ほうれん草・きゅうり・ふき他)
- 平成29年産青果物段ボール予約推進
- 温床資材予約推進(農ビ・ポリマルチ他)
- 春夏まき用野菜種子推進(ほうれん草・枝豆・とうもろこし他)

生産資材部

- 売出し・フェアの実施
- ☆花木流通センター
 - 4月2日(日) 栽培講習会(里芋・枝豆他)
 - 4月6日(木) 寄せ植え講習会(春のバスケット)
 - 4月7日(金)～10日(月) 菜園フェア
 - 4月8日(土) 栽培講習会(なす・きゅうり・とまと)/管理機講習会/寄せ植え講習会(春のバスケット)/みそづくり講習会
 - 4月9日(日) 栽培講習会(なす・きゅうり・とまと)/寄せ植え講習会(春のバスケット)
 - 4月14日(金)～17日(月) 春本番園芸フェア
 - 4月15日(土) 食肉市場試食販売
 - 4月16日(日) 栽培講習会(里芋・生姜)/管理機講習会
 - 4月22日(土) 午前市
 - 4月23日(日) 栽培講習会(なす・きゅうり・とまと)/管理機講習会
 - 4月29日(土)～5月7日(日) ゴールデンウィーク菜園フェア
 - 4月5・12・19・26日(水) 水曜玄米特売日
- ☆愛菜館
 - 4月8日(土) 19日(水) 28日(金) 8の日 お米特売
 - 4月5・12・19・26日(水) 水曜肉特売日
 - 4月15(土) 16(日) とくとき市
 - 4月22日(土) 午前市
- 造園工事推進

肥料農薬課

- セルフブレンド推進
- 茎葉処理除草剤大型規格推進
- 水稻肥料農薬推進

生活部

生活課

- 太陽光発電推進(周年)
- 平成29年度新茶推進(4月～6月)

葬祭総合課

- 会員獲得募集の推進(周年)
- 生花利用拡大運動(周年)
- 新任スタッフ基礎研修(AHまえばし)(4月20日)
- 事前相談会・ご当地物産展(AHたかさき)(4月20日)

施設住宅課

- 賃貸アパート・個人住宅推進(周年)
- カクイチ物置・広スペースハウス推進(周年)
- 住友不動産(株)「新築そっくりさん」推進(周年)

自動車燃料部

石油課

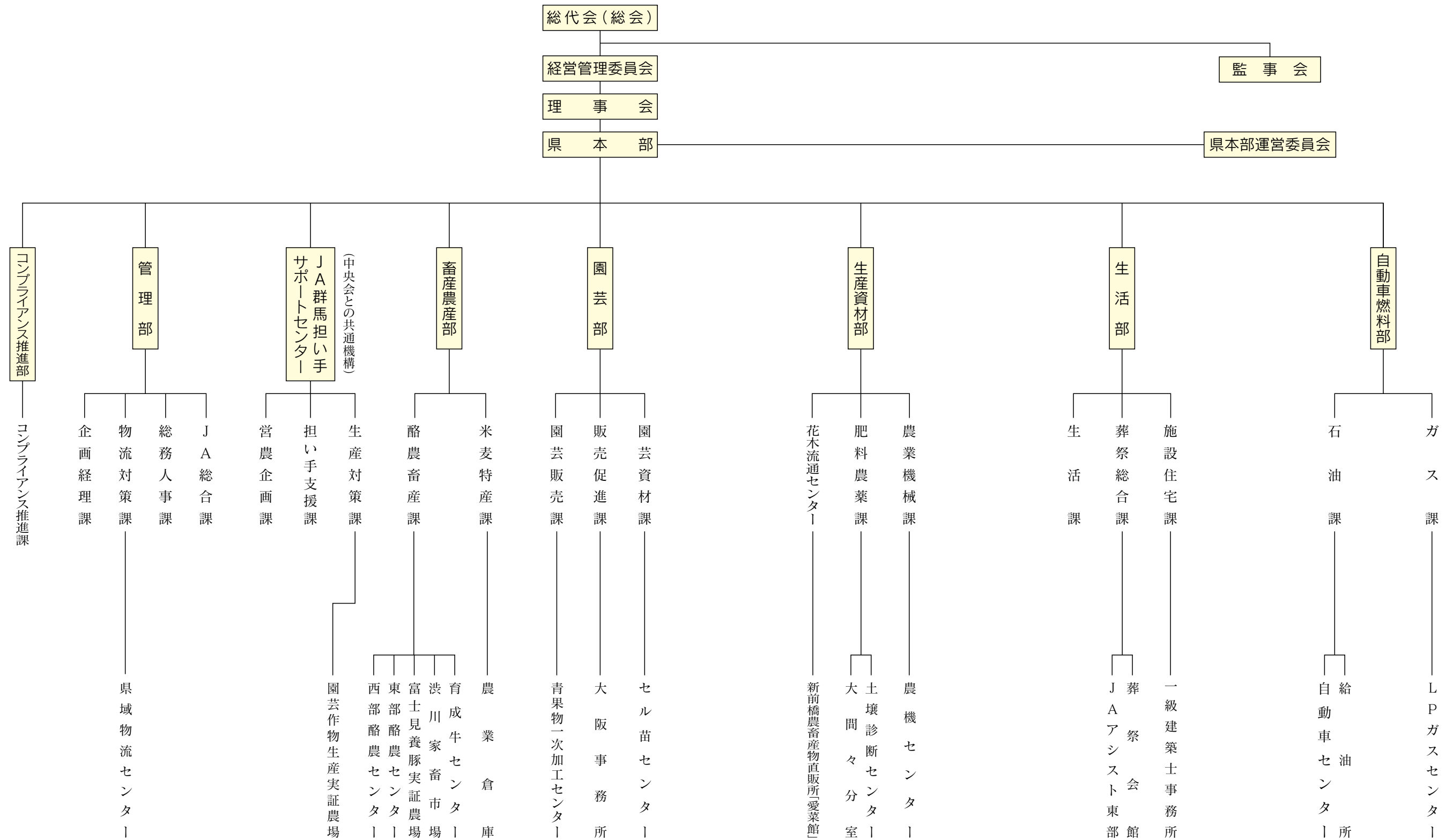
- オイルキャンペーン(2月～5月)
- 春期タイヤキャンペーン(3月～5月)

ガス課

- 平成29年度ガス器具特別推進
- 平成29年度第一回クミアイガス器具推進

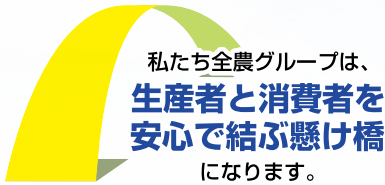
◆平成29年度 全農群馬県本部 組織機構図

平成29年4月1日現在



平成29年度 事業計画書

全農グループ経営理念



私たちは「**安心**」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全国農業協同組合連合会 群馬県本部

I. 基本方向

1. 情勢認識

(1) 生産基盤の弱体化と変化

県内の販売農家戸数・農業就業人口は、高齢化や後継者不足などにより減少し、耕作放棄地の増加等による生産基盤の弱体化により、地域によっては、集落機能はもとより農業生産力・自給力の維持すら困難となっています。一方、集落営農・農業生産法人の数は増加し、全耕地面積は漸減傾向で推移していますが、販売農家一戸あたりの経営耕地面積は増加し、大規模化が進行しています。畜産では全畜種で頭数・戸数が減少しており和牛繁殖雌牛と乳用牛が大きく減少しています。

(2) 消費動向

食生活の多様化などの影響で野菜・肉は増加傾向にあるものの主食用米は減少しており、1世帯あたりの家計消費支出における金額では外食・中食の比率が増加し、特に青果物では、輸入品が一定のシェアを占めるカット野菜・惣菜需要が拡大しています。

(3) 農業政策

TPP(環太平洋連携協定)承認案は、国内において可決、成立したが米国での承認手続きは難航が予想されており、先行きが不透明となっています。

また、米政策については、30年産米から生産数量目標配分の見直し・助成金の改廃が予定され、短期的には需給の緩和により米価が下落し、飼料用米など水田活用穀物の生産拡大に向けた環境整備が急務になっています。

(4) 農協改革

「総合的なTPP関連政策大綱」を受けて、自民党骨太PTや規制改革推進会議では、生産資材等の価格形成の仕組みや流通・加工の業界構造の見直しなど農業の構造改革に向けた検討がすすめられました。本会として、引き続きJAグループの自己改革で定めた、農業者の所得向上および生産基盤の維持・拡大、JA経済事業の支援に資する施策を着実に実践することが求められます。

2. 平成29年度 事業計画の基本方向

群馬県本部ではこのような情勢を踏まえ、経営理念に基づき、組合員・会員への最大奉仕と地域社会への貢献という使命を達成するため、県域とし

てJAグループの自己改革の着実な実践と①農業者所得の増大 ②農業生産の拡大 ③地域の活性化 の「3つの基本目標」を達成するため、「5つの事業戦略」を明確化し、重点実施具体策を実施します。

(1) プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

ア. 実需者ニーズに基づいた米の買取や麦の中期生産計画の策定等により、集荷・販売力を強化します。

イ. 販売力を強化するため、消費者・実需者に支持される農畜産物づくりに向けた生産振興や青果物一次加工事業などに取り組みます。

ウ. 多様な販売体制の確立・強化のため、事業環境の変化に対応した直販方式や品目を横断した総合販売体制を検討し確立します。

(2) 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

ア. 28年10月に設置した園芸作物生産実証農場で、県内主力作物等の農業経営モデルを構築し、安定的な生産体制を確立・普及します。

イ. 労力軽減による生産と販売を充実するため、米のフレコン流通の推進や園芸の流通段階でのパッケージ機能を活用したバラ集荷・簡易規格等による販売等を拡大します。

ウ. 物流合理化体制整備や仕入れ機能の強化と高品質・高収量化技術や低コスト資材・農機等の推進・普及により、生産コストの低減に取り組みます。

(3) 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

ア. 大規模農家・農業生産法人等の担い手ニーズに対応するため、JAの出向く体制強化の支援や園芸作物生産実証農場での研修によりJAグループ職員の人材を育成します。

イ. 農業者所得の増大を図るため、酪農畜産での生産寿命・繁殖能力を向上した凍結精液や耕種作物での多収性の新品種などを推進・普及します。また、県内の畜産生産基盤の維持・拡大対策として、酪農家の労働力軽減・役割分担による効率的な酪農肉牛事業を構築するため、育成牛センターで初妊牛の生産販売および採卵受精卵販売を実施します。

ウ. 担い手への対応強化として、肥料の満車直送や地域に適したセルフブレンド、農薬の大型規格品目等を推進・普及します。

(4) 経済事業を通じた生活インフラ機能の発揮

ア. 地域のニーズに合わせた小規模葬祭会館やセルフSSの設置を検討するとともに、災害時の石油類供給体制の強化と緊急対応設備の設置促進に取り組みます。

イ. ガスの保安対策強化として、高機能安全装置付ガス器具・機器や系統安全化システム(ガスキャッチ)の普及を図るとともに、保安点検調査を強化して組合員に安全・安心を提供します。

(5) 経営体質の強化

ア. 業務内容の多様化・高度化に対応した、業務執行体制の合理化・効率化ならびに人材の開発と有効活用を図ります。

イ. 事業環境の変化に対応した、事業関連施設の経営改善および統廃合を実施します。

IV. 部門別重点実施具体策

[JA群馬担い手サポートセンター]

[営農企画課]

1. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

(1) 担い手への総合的な支援のため、事業提案や経営管理支援などの経営強化策をすすめます。

2. 営農支援対策

- (1) 地域農業振興を図るため、JA農畜産物の生産販売計画の実践と目標達成に向けた取り組みを支援します。
- (2) 高度化・専門化する担い手の課題への対応のため、JA営農経済部門の人材育成支援に取り組みます。

[担い手支援課]

1. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 担い手ニーズに対応するため、TAC活動などJAの出向く体制強化と担当者の育成を支援します。

2. 大規模経営農家・農業法人等への対応強化

- (1) 大規模経営農家・農業法人等への個別事業対応のため、JAの総合事業を活かした事業提案や経営安定化への取り組みを支援します。

3. 新たな担い手の育成・確保支援

- (1) 新規就農者等の確保に向けた、JAの研修会などの取り組みを支援します。

[生産対策課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

- (1) 加工・業務用野菜の生産拡大のため、関係機関・各部門との連携を図り、JAの取り組みを支援します。

2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 園芸作物生産実証農場において県内主力作物等の農業経営モデルを構築し、安定的な生産体制を確立し普及します。

3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 園芸作物生産実証農場での研修によりJAグループ職員の人材を育成します。

4. 野菜の生産拡大に向けた振興対策

- (1) 野菜の生産拡大のため、関係機関・各部門との連携を図り、JAの野菜振興のための取り組みを支援します。

5. 農産物の安全・安心確保対策

- (1) 安全・安心な農産物の生産体制の確立のため、JAの生産履歴記帳推進ならびに残留農薬自主検査の取り組みを支援します。

[畜産農産部]

[酪農畜産課]

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 集送乳合理化対応による酪農家所得増大のため、東部酪農センターを中心とした県央エリアの合理化を検討します。

2. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 生産寿命・繁殖能力の向上のためCRI凍結精液の販売を推進します。また、同精液で作成したホルスタイン雌受精卵の販売を推進します。
- (2) 搾乳牛・繁殖和牛を増頭するため、管内空牛舎の再活用として、酪農ヘルパーと業務提携し哺育センター(キャトルセンター)の設置を検討します。
- (3) 県内の畜産生産基盤の維持・拡大対策として、酪農家の労働力軽減・役割分担による効率的な酪農肉牛事業を構築するため育成牛センターで、初妊牛の生産販売および採卵受精卵販売を実施します。
- (4) 多産系ハイコープ種豚の普及・拡大および同種の精液を推進するとともに、同生産豚の飼養管理技術を指導します。

3. 家畜市場

- (1) 上場頭数増加のため、群馬県本部の飼養管理マニュアルの普及による均一化を図るとともに、他県本部等と継続して業務連携します。

- (2) 牛繁殖農家との契約採卵(全国本部ET研究所)による受精卵の増産および市場上場を推進します。
- (3) 高額販売可能な優良血統若齢雌牛の集中上場を推進します。
- (4) 早期母子分離技術の導入により分娩間隔の短縮(産仔数増加)を推進します。
- (5) 酪農事業と連動した哺育センター(キャトルセンター)機能を実践します。
- (6) 家畜取引法を遵守し、労災事故防止を徹底します。
- (7) 施設の改修や自動セリシステムの更新により新規購買者を獲得します。

4. 系統養豚生産基盤造成プロジェクト事業

- (1) 富士見養豚実証農場において、事故率・枝重の改善等を図り健全な運営を行います。また、東日本くみあい飼料(畜産経営研究所)へ事業の移管を検討・実施します。
- (2) 利根沼田ドリームファームの生産成績を向上します。
- (3) ブランド豚(尾瀬ポーク)の販売推進を支援します。

[米麦特産課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

- (1) 実需者ニーズに基づき、買取等による迅速な集荷・販売体制を構築します。
- (2) 県内向けの販売力強化のため、県産米商品の展開と広告宣伝を強化します。
- (3) 飼料用米の販売強化のため、安定的供給体制を構築します。
- (4) 米粉用米、加工用米・酒造好適米の販売強化のため、実需者確保による生産を維持します。
- (5) 麦需要に応じた生産強化のため、中期生産計画の策定と適正単収を設定します。また、地方連絡協議会・意見交換会・実需者巡回等による需要把握に基づき生産を確保します。
- (6) 高品質麦の安定生産に向けた取り組み強

化のため、生産者に対する契約の確実な実行と栽培技術指導を実施します。また、担い手の育成により作付を維持・拡大します。

- (7) 袋資材の提案力強化のため、フレコン等流通実態にあった資材を推進し、新JIS規格対応の輸入フレコンの取り扱いを拡大します。
- (8) こんにゃく販売先の多様化に対応するため、「生ずり」用途向けの生玉販売を強化します。また、年間販売体制の構築を目指したJA加工施設の改善を提案します。

2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 米穀の多様な集荷方法の強化のため、フレコン流通の推進やJAと連携した庭先集荷の推進を実施します。
- (2) 袋資材の調達コスト低減のため、米紙袋の早期予約取り引きを拡大します。
- (3) こんにゃく輸送コスト削減の推進のため、直搬入取り引きを拡大します。
- (4) こんにゃくの年間平均販売による有利販売を実施するため、荒粉・精粉の加工を推進します。

3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 水稻の多収性業務用品種等の新品種を導入します。
- (2) 麦類産地育成対策のため、「利根硬11号」「アスカゴールデン」等を普及・定着推進します。
- (3) 大豆生産者の大型化への対応のため、「里のほほえみ」等の新品種を栽培実証により導入を推進します。
- (4) 多様なこんにゃく生玉の取り引き方法の実施により、JA・本会の共販率向上と価格形成力を強化します。

[園芸部]

[園芸販売課・販売促進課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事

業転換

(1) 加工業務向け販売の強化

ア. 青果物一次加工事業に取り組み、販売力の拡大を図るとともに、卸売市場との連携によるGルート販売(契約的取引)の拡充強化を図り、農業所得の安定化に取り組みます。

イ. 他県本部・県連と連携し、産地間リレー販売による周年安定供給体制を確立します。

(2) 直販事業の強化

ア. 実需者への直接販売を拡充強化し、全農直販施設(JA全農青果センター等)と連携した付加価値を高めた販売を強化します。

イ. 業種別・用途別の販売先の市場調査および販売提案などによる営業活動を強化し、取引を拡大します。

2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

(1) 労力軽減のため、販売先に対し簡易な出荷形態での販売を提案します。また、流通段階でパッケージ機能を活用し、バラ集荷・簡易規格等による販売を拡大します。

(2) 物流の合理化によるコスト低減のため、地元市場を活用した遠隔地向け販売を拡大します。

3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

(1) 契約販売の拡充強化に取り組みます。

ア. Gルート販売により取引の安定化と販売先の確保に取り組みます。

イ. 周年を通じた安定出荷・価格の販売や出荷形態・荷姿・規格等付加価値をつけた販売を提案します。

ウ. 労力軽減につながるJAパッケージセンターを活用した商品を提案します。

(2) パートナー店との連携強化のため、販売先と産地双方からの企画提案を進めます。

4. 卸売市場販売の拡充強化

(1) 系統共販体制を強化し、共同計算販売を拡充強化します。

(2) 県行政との連携により、県産青果物および花きの消費宣伝事業の拡充強化を図ります。

(3) 関係機関との連携・協調により、需給調整事業の効果的かつタイムリーな実施に取り組みます。

5. 関連情報の収集と発信

(1) 安全・安心に関する情報の定期的発信を行います。

6. 価格安定事業の拡充

(1) 適正な交付予約および効果的な事業実施により、農家経営の安定化を支援します。

7. 生産振興対策

(1) 担い手サポートセンターおよび県行政と連携し、生産基盤強化を支援します。

8. Gルート販売の拡充強化

(1) 加工業務向け青果物の生産振興を、契約取引提案により支援します。

(2) 系統外生産者・生産法人等に対し、安定価格・周年出荷体系等メリットある販売先を提案します。

9. 消費宣伝の強化

(1) 食品メーカー・異業種との共同企画による効果的な消費宣伝を実施し、県産青果物の利用促進を図ります。

(2) パートナー店との連携強化において、状況に即した迅速な消費宣伝の実施、年間を通じた商品供給による売り場の確保に取り組みます。

10. 情報収集・発信の迅速化

(1) 新品種・新規品目・新規出荷形態(荷姿)に関する情報提供を実需者に対し行います。

- (2) 他産地の生産状況や販売戦略の動向、消費地の流通販売動向の情報を発信します。

[園芸資材課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

- (1) 消費地需要にあった新商品の提案・取り組みとして、SRP(楽らくボックス)段ボールを取り扱います。

2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 施設園芸の高品質・高収量化技術の提案・取り組み

ア. 炭酸ガス施用技術やドライミスト発生装置等の施設内湿度管理方法、省力的な地下部環境制御技術を検討・実証します。

イ. トロ箱溶液栽培システム「ういずOne」を普及します。

3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 全国需要結集による価格低減として、全農オリジナル商品(クラフト・OPPテープ等)を提案・推進します。

4. 販売事業との連携強化による出荷資材の規格統一や開発・普及提案

- (1) 全国需要結集品を提案し、普及します。
(2) 系統パイプハウス補償制度の活用によりシェアをアップします。

5. 品目選定と重点的な推進による事業拡大

- (1) 戸別推進によりハウス被覆資材やマルチなどの農業資材の取り扱いを拡大します。
(2) 適正包装等の提案により、段ボール資材の取り扱いを拡大します。
(3) 花卉種苗の取り扱いを拡大します。

6. 低コスト資材・環境問題に対応する資材等の事業拡大

- (1) 生分解マルチ・省エネ資材などの農業資

材の取り扱いを拡大します。

- (2) 輸送コストの低減を図るため、加工業務向けの鉄製コンテナなどの大型包装資材の取り扱いを拡大します。

- (3) 新形状・省力型・低コスト原紙などの段ボール資材の取り扱いを拡大します。

7. JA担当者への推進力強化

- (1) JA別資材担当者研修会等を実施します。
(2) 系統園芸用パイプハウス補償制度を普及推進します。

[生産資材部]

[花木流通センター]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

- (1) 顧客ニーズに応えるため、顧客年齢層(50~70代)に合わせた商品をセレクトし、企画・提案します。

2. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 農産物直売の出荷者の確保

ア. 近隣JAへの働きかけと説明会を開催します。

イ. 既存出荷者へ希少品・差別化品の生産を依頼します。

ウ. 生産者組織を有効活用(フェア・イベント等)します。

3. 経営体質の強化

- (1) 収益の確保のため、粗収益率の高い農機・園芸農薬等の取り扱い高を拡充します。
(2) 費用の削減のため、嘱託・技能職の積極的登用、臨時職の効率的勤務体制の確立等により、人件費を削減します。

4. 花木流通センターの再開発および事業拡大

- (1) 新鮮で安全・安心な農産物を消費者に届けるため生産履歴制度の確立とともに、産直農家及び県内各産地から集荷による産直

店舗の取り扱い高拡大と新規取り扱い商品（食肉商材・ベーカリー・イートイン等）ならびに新形態で経営内容を充実します。

- (2) 花木流通センターを機軸とし、生園芸の内容充実と資材等の大量購買のメリットを活かし、仕入体制を強化し、生産資材店舗等への有利性を発揮し、事業を拡大します。

5. 愛菜館の業務改善

- (1) 消費者が安心して購入するための食品表示徹底と接客体制を改善します。

6. 地域農業の支援者の拡大

- (1) 収穫体験農場で栽培講習会・収穫体験・親子食育教室などを実施し、消費者とJAグループ・生産者の接点を深め、地域農業の支援者を拡大します。

【肥料農業課】

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

(1) 低コスト・省力商品の開発と普及

- ア. 国内の地域資源を活用した鶏糞燃焼灰入り銘柄や混合堆肥複合肥料を推進します。
- イ. 新肥料原料を活用した価格抑制銘柄として、輸入被覆尿素・輸入硝酸化成抑制材入り尿素銘柄を推進します。
- ウ. 土壌中のりん酸、加里成分が十分ある場合に対応する肥料として、りん酸、加里の含量を下げたPKセーブシリーズを推進します。
- エ. 安価な輸入化成肥料の取り扱いを拡大します。
- オ. 農薬大型規格茎葉処理除草剤等の大型規格品を推進します。

(2) 担い手向けの肥料満車直送の拡大

- ア. 大型車を主体とした数量を拡大します。
- イ. 基肥用銘柄で500kgフレコンを実施します。

(3) 生産者ニーズに対応したBB肥料の促進

- ア. 農家の要望と地域に適したセルフブレンド肥料を推進します。

- イ. 広域で供給するBB肥料の新規取り扱いを協議します。

(4) 銘柄集約の取り組み強化

- ア. 国産化成(一般)肥料・配合肥料の銘柄集約を促進するため、県内の銘柄構成を踏まえた集約銘柄の検討と選定を実施します。

- (5) 省力商品の肥効調整型肥料および育苗箱全量施肥銘柄、水稻除草剤省力散布技術を開発・普及します。

- (6) 生産性向上に資する資材・技術の提案として、土づくり肥料を推進します。

- (7) 生産資材総合推進による園芸分野事業の強化

- ア. 難防除害虫であるアザミウマ類、ハダニ類対策の代表的な天敵「スワルスキーカブリダニ」などの増殖資材「バンカーシート」を活用したIPM(技術総合的病害虫管理)を推進します。

2. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 大規模営農モデル推進による担い手の経営改善

- ア. 農家手取りが最大となる営農モデルの構築と実証として、モデルJAの取り組みを実証実践します。

- (2) 生産資材価格の「見える化」への取り組みとして、栽培歴・予約注文書の改善を支援します。

- (3) 講習会等による人材育成支援として、各種講習会を開催します。

- (4) JA生産資材店舗の商品提案力向上のため、JA-POP甲子園や関東ディスプレイコンテストへの参加を促進します。

- (5) 農家に選ばれる品質・価格の資材提供として、本会開発剤等の水稻除草剤のMY-100剤やAVH-301剤及びスプラサイド剤を推進します。

- (6) 担い手への対応強化として、土壌診断の

実施・施肥改善の提案・堆肥分析による土づくりを支援します。

[農業機械課]

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 低コスト農業機械の普及のためJAグループ独自型式・県本部推奨型式の導入と、中古農機査定士制度の活用による良質な中古農機の取り扱いを拡大します。
- (2) 農業機械の長期利用による導入コスト削減と、農繁期マシントラブルの未然防止に寄与する、格納点検整備の拡充を図ります。
- (3) 農機レンタル実証事業とモデルづくりを実施します。
- (4) 整備コストの低減を目的としたセルフメンテナンスを支援します。

2. 経営体質の強化

- (1) 農機サービスの安定的提供のため、JA・県域農機一体運営事業による経営基盤を強化します。
- (2) 農機一体運営拠点を集約統合し、農機サービスの効率的な事業を展開します。
- (3) 人づくり・仕組みづくり・結果づくりの新3づくり運動を展開し、組合員の多様なニーズに対応します。

[生活部]

[生活課]

1. 組織購買事業の競争力強化

- (1) JA・農家組合員施設の有効利用と環境保全を図るため、太陽光発電システムの取り扱いを拡大します。
- (2) 安心・安全で旬な物を旬な時期に合わせ、品質・価格の安定供給を図り国産青果物の取り扱いを拡大します。
- (3) 農家組合員等の資産保全を目的に早期予防を行い、シロアリ防除・瓦補修事業への取り組みを強化します。
- (4) 健康体感館・聞こえの相談会等の開設により、健康関連商品の取り扱いを拡大しま

す。

- (5) 直売所向け商品の供給体制の見直しと品揃えの充実を図るため、JA直売所への供給を拡大します。

[葬祭総合課]

1. 経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮

- (1) 地域のニーズに合わせた葬儀事業の展開として、小規模葬祭会館の建設を検討します。

2. 葬祭事業競争力強化

- (1) 会員加入推進の取り組みや宣伝強化により、JA葬儀施行件数を拡大します。
- (2) 各種フラワーイベントの開催や仕入れの見直し等により、生花の取り扱いを拡大します。
- (3) 情報収集・提供の強化や未利用JAへの推進により、墓碑の取り扱いを維持します。
- (4) JA葬祭事業専門職員の育成を図るため、各種講習会・研修会を実施します。
- (5) JA葬儀事業の事務の効率化と経営管理強化を図るため、葬儀管理システム導入を推進します。

[施設住宅課]

1. 系統施設建設事業の確立

- (1) 施主代行の計画作成から設計・施工管理にいたる総合的機能を発揮し、低コストで合理的な施設建設に取り組みます。
- (2) JA等の既存施設の補改修等の提案を行い、施設の有効活用を進めます。
- (3) JACントリーエレベーターの施設診断を行い補改修・機械の更新を提案します。
- (4) トータルコスト削減の観点から、農業施設の総合コンサルと複数JAによる計画的な施設の集約・相互利用を進めます。

2. 農住事業コンサル機能の強化

- (1) 賃貸住宅の系統仕様基準をもとに、組合員に信頼される賃貸住宅建設に取り組みます。

- (2) 組合員の資産活用に応えるため、相談会・相続対策セミナー・土地活用セミナーなどを積極的に開催するとともに、JAの他部門との連携により情報収集を強化します。
- (3) 宅地建物取引業法の一部改正(平成28年6月3日公布)に伴い、有資格者による既存住宅現況検査(インスペクション)を積極的に提案・実施することにより、中古住宅の適正取引やリフォーム工事の円滑な推進に努めます。
- (4) 賃貸住宅経営の長期安定のため、巡回点検による適切なリノベーション提案や管理会社との対策会議を定期的に開催し、入居率アップを図ります。
- (5) 大手Webサイトへの空室物件を掲載します。

3. 広域事業所の検討

- (1) 北関東(茨城・栃木・群馬)広域施設農住事業所の組成に向けて検討します。

4. 専門資格者の確保と育成

- (1) 専門資格者(一級建築士・宅地建物取引士)の育成と確保を積極的に進め、事業主体が求める高度な技術と知識により施設建設に伴う管理業務と提案活動を実施します。

[自動車燃料部]

[石 油 課]

1. 経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮

- (1) JA-SSおよび配送施設の拠点再編として、効率的なSS運営の実現のため、セルフSSの設置促進を進めるとともに老朽化施設の施設改善への取り組みと低コスト運営手法を研究します。
- (2) 営農用燃料の取り組み強化として、営農用A重油(国産A重油還付)の新規利用を拡大します。
- (3) 物流コストの低減と安定供給体制の確立として、配送施設の集約による物流の合理

化とコスト削減および災害時の供給体制の強化と緊急対応設備の設置促進に取り組みます。

2. 経営体質の強化

- (1) JA-SSの運営体制の強化のため、スタッフを育成して現場指導を強化し、サービスの向上に取り組みます。
- (2) 事業競争力の強化を図るため、競合SSとの差別化を図り、JA取り扱いシェアを拡大します。
- (3) 機構改革により、自動車事業を石油課管轄下に移管し、SSとの連携により収支を改善します。

3. 自動車整備事業の強化

- (1) 連合会職員・関連会社職員へ車検入庫促進策を実施します。
- (2) SSとの連携により新規車検の獲得に取り組めます。
- (3) 業務用車両の定期点検入庫を促進します。
- (4) ハイブリッド・電気自動車を含む整備技術の向上を図り、安全・安心・信頼されるアフターサービス体制の構築に取り組めます。

4. 自動車販売事業の強化

- (1) 関連会社・取引先業務用車両を推進します。
- (2) 連合会の職員および関連会社の社員へ車両を推進します。
- (3) ユーザーニーズに応えられる中古車取り扱い体制を構築します。

[ガ ス 課]

1. 経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮

- (1) 保安対策の強化として、高機能安全装置付ガス器具・機器を普及促進します。
- (2) 系統安全化システム(ガスキャッチ)の普及拡大により保安を高度化し、保安サービスと信頼の向上・他業者との差別化・シス

テム全体のコスト削減を図るとともに保安点検調査を強化し組合員に安全・安心を提供します。

2. 取り扱い数量の維持拡大

- (1) 他業者切替防止対策を強化し、家庭用需要を維持します。
- (2) 小売指導担当者を配置し、家庭用燃料転換活動の展開および新エネルギー推進の取り組みにより小売機能を強化します。

3. 営農支援の強化

- (1) LPガス光合成促進機の普及拡大を図り、生産物の品質向上の支援に取組みます。
- (2) 加温機等の燃料転換を実施し、施設園芸の省エネ化とコストメリットを図ります。

4. 新たな事業体制の整備

- (1) 小売機能強化に向けた県域直売体制を構築します。

[管 理]

[コンプライアンス推進課]

1. コンプライアンス推進態勢の充実

- (1) コンプライアンス意識の向上対策の取り組みとして、コンプライアンス推進全体職員研修会(年2回)を実施します。また、全国本部と連携しながら研修等を通じて関連する法令への知識と理解を深め、適正に事業に取り組みます。

2. リスク管理態勢の強化

- (1) 重点管理すべきリスクへの対応強化として、労災防止・交通安全に係る啓発と対策強化に向けた取り組みやリスク事案発生部署の巡回指導・現金管理状況の確認・個人情報管理に係る取り組みを強化します。
- (2) 食品の適正表示の徹底のため、食品表示に係る巡回指導・検証(県本部該当部署・食品取り扱い子会社)・同業種拠点における食品表示管理業務の相互検証・リスク事案発生部署を巡回指導します。

3. 子会社等の管理態勢の強化と経営強化対策

- (1) 会社内のガバナンス強化のため、定時株主総会・取締役会の適正な運営のための会社管理部署の指導や、常勤監査役および認定監査主任者との連携による適切な取締役業務執行の補佐・内部統制システム構築を支援します。
- (2) 的確かつ効率的な事務処理を目指すため、関連事業担当者研修を開催します。

[企画経理課]

1. 情報の収集・発信

- (1) 各事業部門との連携により、情報誌の内容の充実とホームページ・新聞等を積極的に活用した情報を収集・発信します。
- (2) 各種イベントや情報誌を通じ、県産農畜産物のPRと情報収集・提供に努めます。

2. 経理業務の現業サポート強化

- (1) 業務の適正化を図るため、規定・規則・細則・要領等に則った経理処理を徹底します。
- (2) 適正な現金管理を指導するため、現金の取り扱い部署を巡回します。
- (3) 的確かつ効率的な事務処理を目指すため、経理関係研修会を開催します。

[物流対策課]

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) JAグループ物流コスト削減の取り組みとして、県域物流未実施JAへの参画を推進し、県域物流ネットワークを構築による県内JA物流相互補完を強化します。
- (2) JAグループ物流コスト低減のため、県域を越えたブロック域での取り組みとして、関東広域肥料農薬拠点(仮称)の県内誘致の検討や県本部内物流実態調査による県本部部門間配送品を集約します。

2. 県域物流実施JAの経済事業改革支援

- (1) 県域物流実施JAの更なる合理化のた

め、JA物流コスト定期調査や配送実績・配送スケジュール等の物流管理を徹底します。また、配送効率化によりコスト低減します。

[総務人事課]

1. 経営体質の強化

- (1) 今後の施設投資(更新・修繕)を検討するため、施設老朽化の現状を調査し、中長期修繕計画を策定します。
- (2) 今後の事業遂行に必要な要員を確保するため、要員不足や年齢構成是正のための要員施策(中途採用や身分移行、障害者雇用の促進等)を検討します。

[JA総合課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

(1) 多様な販売体制の確立・強化

ア. 事業環境の変化に対応した直販方式やIT活用、品目を横断した総合販売体制を検討し確立します。

イ. 県内JA産直取引の提案品目の拡充・販売拡大や群馬県産農畜産物・加工品の認知度向上に取り組みます。

2. 会員JA等に対する総合窓口担当業務の取り組み強化

- (1) JAに対する連絡・調整・相談業務を強化します。また、JA経済事業推進協議会活動と営農指導員連盟との連携による経済事業活動を強化します。
- (2) JAの情報を収集・調査して、関係部門に正確かつ迅速に報告し本会事業に活用します。
- (3) JA及び関係機関の各種催事等に参画します。また、行政機関と連携したJA事業への取り組みを強化します。



JA 邑楽館林たたらセルフ給油所竣工式

■ たたらセルフ給油所がオープン！

2月19日(日)、「JA 邑楽館林たたらセルフ給油所竣工式」が執り行われ、JA 役職員と当県本部の関係者らが出席しました。JA と当県本部による県内初の一体化運営に取り組んできたたたら給油所は、オープンより25年経過し、老朽化のためセルフ給油所として建て替えられました。式典で挨拶に立った江森組合長は、「主流のセルフ方式で、組合員・地域住民の一層の満足度向上に努める。」と意気込みを話しました。また、当日は関係者によるテープカット、給油式が行われ完成を祝いました。



平成28年度 群馬県農機事業経営委員会

■ 農機事業の更なる強化に向けて

2月22日(水)、「平成28年度 群馬県農機事業経営委員会」がJAビルにおいて開催されました。大澤会長や大澤副会長をはじめ、県内JAの組合長・理事長及び当県本部の関係役職員参集のもと、農機事業に係るトータルコストの低減や経営体質の強化に向けた取り組み内容を確認しました。当日は、「平成28年度事業報告」・「平成29年度事業計画」・「覚書の締結」・「平成29年度役員体制」についての協議が行われ、全て可決承認されました。



JAファーマーズ太田藪塚店起工式

■ 藪塚地区にJAファーマーズを起工

2月25日(土)、「JAファーマーズ太田藪塚店」の起工式が執り行われ、施主代行を務める当県本部の関係者も出席しました。JA 農産物直売所とスーパーマーケットが一体となった「JAファーマーズ」の県内6つ目の店舗です。(株)エコープ関東の織田社長は挨拶で、「ここ藪塚地区から安全でおいしい農畜産物を発信し、地域の活性化に貢献したい。」と期待を込めて話しました。オープンは8月頃を予定しています。



平成28年度 肉用牛合同研修会

■ 模範的な肉牛経営を学ぶ

3月3日(金)、(公社)群馬県畜産協会・(一社)家畜改良事業団前橋種雄牛センター・各種協議会・当県本部共催の「平成28年度 肉用牛合同研修会」が開催され、生産者やJAの畜産担当者等約250名が参加しました。第1部では各団体による事業・情勢報告等が行われ、続く第2部では島根県の(株)松永牧場より専務取締役の松永直行氏を講師に招き、繁殖システムと設備や肉用牛の血統についての講演が行われました。



愛菜館創業16周年大創業祭



J A たかさき六郷支店竣工式

■ 日頃の感謝の気持ちを込めて

3月5日(土)・6日(日)の2日間、愛菜館で16周年大創業祭が開催され、お買い得商品を買求める多くのお客で賑わいました。期間中は、JAはぐくみの箕輪城みそを使ったみそ汁の無料配布や(株)群馬県食肉卸売市場による上州牛・上州麦豚の試食販売、じゃがいも・しいたけの詰め放題などの各種イベントが行われました。また、2,000円以上お買い上げの方を対象にした、食品や花苗プレゼントも実施され好評でした。

■ 六郷支店がリニューアルオープン

3月13日(月)、「JAたかさき六郷支店竣工式」が執り行われ、施主代行を務めた当県本部の関係者も出席しました。老朽化により新築された当支所は、バリアフリーに配慮した平屋建ての建物です。新たに談話室や大会議室が設けられ、組合員とのコミュニケーションを大切にしたい作りとなっています。式典で挨拶に立った田口組合長は、「支店の向かいある直売所とも連携し、地域住民の拠り所としていきたい。」と抱負を語りました。



県産うどんが大集結!!

2月18日(土)、花木流通センターにて毎月恒例の「JA農畜産物フェア」が開催されました。これは、県産農畜産物の知名度向上を図るために、月に1回、県内JAの産直野菜・特産物・加工品を販売しているイベントです。今回は、群馬県産小麦(さとのそら・きぬの波)を使用したうどんがテーマ。JA前橋市・JA



▲ 3JAがうどんの試食販売を行いました



▲ 賑わう会場の様子

佐波伊勢崎・JAたかさきがそれぞれのJAブランドのうどんの試食販売を行いPRしました。来場者は食べ比べするなどし、味や食感の違いを楽しんでいました。また、会場ではJA上野村の猪豚餃子をはじめ、県内JAの旬の野菜や自慢の加工品も多数出品され、多くの人で賑わいました。



群馬県産青果物 販路拡大のために

2月21日(火)、県・群馬県園芸振興協議会・当県本部共催の「群馬県青果物販売促進会議」が開催され、県内各JA・JA関連団体・全国主要青果物卸売会社・流通関係者等、約200名が参加しました。この会議は、市場をはじめとする流通関係者に対し、本県産青果物の販売促進を行うと共に、生産から流通までの販売体制の強化を図ることを目的に毎年開催されています。当日は、優良卸売会社並びに実需者の表彰や、本県の



▲挨拶をする大澤会長



▲試食会場の様子



▲優良卸売会社の表彰

園芸振興対策と平成29年度青果物生産出荷基本計画についての説明、中小企業診断士で兵庫県立大学大学院客員教授の下田氏による講演会が行われました。



花木流通センター「新農畜産物直売所」起工式を開催

当県本部は、花木流通センター内に新たな農畜産物直売所を建設します。県産農畜産物を豊富に取り揃え、地産地消や食育を推進し、群馬県農業の一大拠点となることが期待されます。3月1日(水)には、起工式が執り行われ、関係者約25名が出席しました。挨拶に立った須藤本部長は、「新農畜産物直売所を群馬県農業の発信基地とし、生産者の所得向上に努める。」と意気込みを話しました。オープンはこの年の10月を予定しています。



▲起工式の様子



▲挨拶する須藤本部長

～新農畜産物直売所の特徴～

●クッキングサポートコーナーを新設

隣接の収穫体験農園で収穫された農産物と店内食材を使用した料理を提案するなど、食育を推進します。



●買い物がしやすい空間を実現

ショッピングカートでもすれ違えるよう、広めの通路を確保します。

●フードコートの設置

店内の商品が食べられるほか、県産米おにぎり・焼き立てパン等の軽食を提供します。

●JA高崎ハム(株)による手作りハム工房の設置

県産豚肉を原料とした上質なハム・ソーセージ等の製造・調理・販売を行います。



県産農畜産物 売り込みに手応え

3月7日(火)～8日(水)の2日間、東京国際フォーラムにおいて「第11回JAグループ国産農畜産物商談会」が開催されました。これは、食品会社やバイヤーに向け、地域色溢れた商品を宣伝し、販路拡大を図ることを目的に毎年開催されているものです。今回JAグループ群馬のブースには、JA前橋市・JA佐波伊勢崎・JAにっただみどりと群馬県食肉品質向上対策協議会が出展。JAたかさき・JAはぐくみ・JAたのふじは高崎市のブランド「高崎そだち」として参加し、JA上野村も出展しました。各JAの農畜産物加工品を始め、上州牛・上州麦豚や県育成品種のいちご「や



▲ オープニングセレモニーの様子



▲ バイヤーに向け熱心に説明するJA担当者

よいひめ」など自慢の商品を豊富に用意し、試飲・試食を通し、積極的に魅力をPRしました。バイヤーからの評判も良く、昨年を上回る商談がありました。



▲ 群馬県ブースを訪れた小淵優子議員

組合員のみさまへ

エコップ茶葉は、まろやかな風味とさわやかな香りを生かす、伝統製法のお茶です。このお茶は、茶葉の選別と焙煎の工程で、品質を高め、味を良くしています。

玉翠 1kg (167g/50g)
白葉 1kg (167g/50g)
紫鳳 1kg (167g/50g)
プレミアム紫鳳 1kg (167g/50g)

このお茶は、茶葉の選別と焙煎の工程で、品質を高め、味を良くしています。

「エコップ銘茶」ってどんなお茶？

JAグループが半世紀にわたって育んできた「美味・安心・おいしめ」自慢の銘茶ブランドです。

おいしい理由

成分充実した生葉
八十八度前後に熱したお茶の抽出液を、新鮮な生葉から抽出しています。

伝統と熟練の技術
まろやかな風味を引き出し、茶葉の選別と焙煎の工程で、品質を高め、味を良くしています。

新鮮な真空パック
エコップ茶葉は、真空・窒素ガス充填包装により、品質を高め、味を良くしています。

お買い得理由

結果メリット発揮
組合員・利用者の皆さん、JAへの献金によって、大量に取られているブランドです。

製造コストの削減
JAグループとメーカーの協力により、物流と流通の合理化により、製造コストを大幅に削減しました。

流通コストの削減
JAグループとメーカーの協力により、物流と流通の合理化により、製造コストを大幅に削減しました。

安心の理由

定期的な残留農薬・添加物の検査を実施し、安全な品質を確保しています。

信頼品質保証モデル
ISO9001の認証を取得し、全工場での品質保証を実施しています。

GAPへの取組
JAグループとメーカーの協力により、物流と流通の合理化により、製造コストを大幅に削減しました。

夏は冷茶がおすすめ!!

約100gの冷茶パックに10g(大さじ2杯)の茶葉を入れる。
水1ℓを入れ、冷蔵庫で冷やす(約1時間)。
茶こしを使ってカップに注ぎ、8分おきの茶葉を10gの茶葉で2ℓの冷茶が作れます。

お楽しみポイント

冷やして飲む場合、茶葉は入れっぱなしで大丈夫、冷やして飲む場合は、2日間はそのまま利用できます。

—お問い合わせ先—
JA全農ぐんま 生活課

TEL 027-220-2351
FAX 027-220-2324

みどりの風 放映予定

番組名/提供	放送日 ※再放送日	時間
辻はるな 群馬の農業に出会う/JA群馬中央会	4月3日(月) ※4月9日(日)	PM9:00～9:30 AM8:00～8:30
花木流通センターで春を満喫しよう!/JA全農ぐんま	4月10日(月) ※4月16日(日)	PM9:00～9:30 AM8:00～8:30



辻 はるなアナ

GTV 48ch 放映のお知らせ

農業チャレンジャー

藪塚ブランドの誇り 最高の逸品を消費者へ

JA太田市管内 永田 智久さん

長年かけて導いた手法

今回のチャレンジャーは、JA太田市藪塚地区で「藪塚こだま西瓜」の生産をする永田さんです。農業を営む両親の影響から、自分もその道に進むことに迷いはなかったという永田さん。高校・短大と農業について学び、卒業後すぐに就農しました。「自分の思い通りに栽培できるようになるまで長年かかりました。試行錯誤を重ね、20年目を越えた今、ようやく納得のいく栽培方法が確立できたと感じています。」と話してくれました。

3月から出荷が始まった今年の小玉スイカ。この時期(3月)は、午前に交配・手入れ、午後に収穫と前日収穫分の選別・箱詰め作業を行っています。

ブランド認知に追い風

JA太田市管内の生産者36名で構成されたスイカ部会。その部会長を務める永田さんは、産地のブランド力強化を目指し、市場での消費宣伝やメディア対応などのPR活動にも意欲的に取り組んでいます。「今年の3月1日には、大田市場で試食宣伝を行いました。初出荷のこの日、4玉入りのケースに3万円

という過去最高値をつけていただき、幸先の良いスタートが切れました。このような成果が、部会の仲間たちの生産意欲向上や後継者の増加にもつながればと思っています。」と永田さん。着実に認知度を上げている藪塚ブランドに期待感を示します。

最高品質ぜひ食べて

これから出荷の最盛期を迎える小玉スイカ。今年の出来について何うと「今年は天候に恵まれ、順調に生育しています。糖度も高い上、食味も良くここ数年でも最高の品質です。食べてもらえばわかります。」と太鼓判を押します。

今後に向けた思いを何うと、「おいしいのは当たり前。これからはより高級感を出し、一度食べた人にリピーターになってもらえる物を作りたいと思っています。今後も生産者・JAが一丸となり、『チーム藪塚こだま西瓜』として、産地を盛り上げていきたいと思っています。」と意気込みを聞かせてくれました。高品質な小玉スイカ作りとPRに努め、生産者の中心的存在としてブランドを支える永田さんの、熱き挑戦はこれからも続きます。



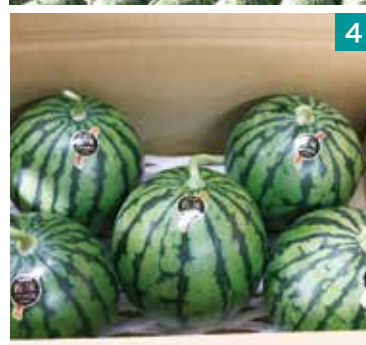
Profile

永田 智久 (ながた・ともひさ) さん
1974年生まれ、42歳。
JA太田市青壮年部所属
スイカ部会部会長を務める。

栽培面積
小玉スイカ 70a
【冬期】
ほうれん草・小松菜
..... のべ1ha

趣味：仲間とお酒を飲む
休日：妻・娘3人と過ごす





1 12月上旬に定植をし、交配を経て3月上旬から7月中旬まで収穫を行います。「今年は最高の出来。ぜひ食べて味を確かめてください。」と永田さん。

2 弟の永田敏弘さん(右)は、JA太田市数塚野菜センターのセンター長。兄弟で数塚こだま西瓜のブランド力強化に取り組んでいます。

3 交配後43日の様子。あと1週間ほどで収穫です。

4 JA太田市では、2014年より名称を「数塚こだま西瓜」に統一し、品種名ではなく、産地名を前面に出したPRを展開しています。



「強い信念を持ち 仕事に邁進」

Profile

奈雲 勇介 (33歳)
なぐも・ゆうすけ

趣味……………映画鑑賞・マンガ

好きなマンガ……………ワンピース

好きな食べ物……………からあげ

●職場の皆さんからみた奈雲さん
「曲がったことが嫌いで、仕事に対して常に真っ直ぐに取り組んでいます。あらゆる状況に柔軟に対応できる頼もしい存在です。」



▲担当品目であるほうれん草を手にする奈雲さん

がんばって
まーす!

JAにっただみどり 園芸販売部 園芸課
なぐも ゆうすけ
奈雲 勇介さん

——現在入組何年目ですか？

7年目です。入組当初からずっと園芸課で、青果物の販売に関わる業務に携わっています。

——具体的なお仕事内容を教えてください。

ここ笠懸野菜集出荷所で、組合員さんが出荷する青果物の集荷、品質や規格の検査、分荷や市況交渉などを行っています。

——こちらの集出荷所では、出荷に関する資材も扱っているのですね。

はい。ダンボール等の出荷資材の受発注と在庫管理も行っています。適正な在庫数を保つため、出荷状況に応じた数量調整には気を使います。

——仕事に対する思いをお聞かせください。

組合員の皆さんが丹精込めて作った農作物をできるだけ高値で販売し、所得の向上に貢献したいと思っています。そのため、市場との価格交渉には一切妥協を許しません。また、各市場の相場動向等も日々確認しています。

——どんな時にやりがいを感じますか？

思うような値段で売れない時にはもちろん、組合員さんから叱咤激励を受けることもあります。しかし、自分の業務を評価してもらえることもあるので、それがモチベーションにつながっています。

——休日はどのように過ごしていますか？

子供が2人いるので、家族と出かけることが多いです。2人とも男の子なので家の中はいつも賑やかです。

——映画がお好きとのことですが、どのようなジャンルの作品を観るのですか？

特に好きなのは、韓国映画ですが、それ以外も幅広く観ます。先日は子供と一緒に妖怪ウォッチを観に行きましたが、面白かったですよ。

——最後に、今後の意気込みをお願いします。

農業はなかなか厳しい状況がありますが、新規就農者の面積拡大などに力を入れ、活性化させていきたいと思っています。また、生産者にJAを利用した資材や種苗の購入推進を積極的に行っていきたいです。

——奈雲さん、これからも農家の皆さんのために頑張ってください。ありがとうございました！

畜産ダイジェスト

肉牛情勢

肉牛実績

(瑕疵抜き税込) (単位：円)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
上場頭数 (単位:頭)	平成 27年	991.5	784.0	772.0	942.5	750.5	856.0	890.0	1,213.0	1,252.0	678.5	773.5	799.0	10,702.5	891.9	
	平成 28年	1,109.0	778.0	745.0	903.0	791.0	973.5	866.5	1,114.0	1,271.5	808.0	670.0		10,029.5	880.9	
黒毛和種 (去)	A5	平成 27年	2,543	2,551	25,101	2,470	2,531	2,582	2,623	2,747	2,937	2,888	2,831	2,835		2,691
		平成 28年	2,937	2,958	2,886	2,896	2,843	2,772	2,836	2,938	3,055	2,906	2,823			2,904
	A4	平成 27年	2,283	2,349	2,252	2,255	2,349	2,395	2,455	2,539	2,754	2,645	2,640	2,629		2,469
		平成 28年	2,734	2,733	2,653	2,631	2,587	2,553	2,608	2,675	2,645	2,583	2,568			2,634
	A3	平成 27年	2,098	2,132	2,080	2,085	2,106	2,133	2,228	2,349	2,485	2,464	2,384	2,412		2,236
		平成 28年	2,514	2,525	2,393	2,356	2,371	2,322	2,372	2,411	2,261	2,304	2,214			2,362
	A2	平成 27年	2,026	1,848	1,866	1,956	1,832	1,909	1,969	2,167	2,275	1,840	1,977	2,164		1,991
		平成 28年	2,332	2,304	2,184	2,154		2,002	2,138	2,047	1,955	2,053	1,791			2,088
交雑種 (去)	B5	平成 27年	1,800	1,855		1,965		1,922		2,085		2,107	2,215			2,015
		平成 28年	2,126		2,052						2,174					2,124
	B4	平成 27年	1,723	1,778	1,770	1,781	1,797	1,838	1,843	1,890	1,927	1,871	1,863	1,843		1,841
		平成 28年	1,902	1,892	1,844	1,914	1,916	1,920	1,938	1,942	2,015	1,867	1,836			1,910
	B3	平成 27年	1,654	1,693	1,672	1,703	1,707	1,717	1,746	1,751	1,789	1,723	1,657	1,700		1,712
		平成 28年	1,742	1,719	1,710	1,755	1,754	1,742	1,760	1,754	1,760	1,710	1,676			1,739
	B2	平成 27年	1,585	1,820	1,558	1,594	1,573	1,597	1,640	1,641	1,549	1,550	1,406	1,407		1,551
		平成 28年	1,602	1,588	1,557	1,582	1,584	1,607	1,583	1,549	1,509	1,504	1,398			1,556

3月 渋川家畜市場市況

(株)群馬県食肉卸売市場 肉牛課

区分	性	出場頭数	成立頭数	高値価格	安値価格	平均価格	平均体重	平均日令	平均単価
子牛	雌	99	97	976,320	516,240	714,481	285	293	2,506
	雄								
	去	152	149	1,169,640	475,200	886,890	315	291	2,806
	計	251	246	1,169,640	475,200	818,907	303	292	2,695
成牛	雌	4	2	735,480	709,560	722,520	508	2,037	1,422
	雄								
	去								
	計	4	2	735,480	709,560	722,520	508	2,037	1,422
若齢	雌	4	4	543,240	460,080	511,110	129	133	3,946
	雄	6	6	949,320	494,640	672,840	141	118	4,755
	去								
	計	10	10	949,320	460,080	608,148	136	124	4,448
合計		265	258	1,169,640	460,080	809,991	298	299	2,710

養豚情勢

肉豚実績

(税込) (単位：円)

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
総と畜合計 (単位：頭)	平成27年		41,752	37,407	39,299	40,863	35,998	42,383	45,504	42,052	43,542	40,885	40,178	42,107	491,970	40,998	
	平成28年		40,481	35,948	37,630	35,502	37,818	39,656	40,977	43,339	43,106	41,406	37,917		433,780	39,435	
群 馬	極上	平成27年	569	539	578	632	637	538	470	478	538	482	587	500		544	
		平成28年	495	565	609	558	501	521	484	514	519	499	549			527	
	上	平成27年	569	535	565	613	615	530	471	481	531	472	525	490		532	
		平成28年	492	560	603	557	499	526	483	508	518	501	515			522	
	中	平成27年	565	525	562	611	607	514	455	470	522	451	511	478		520	
		平成28年	477	552	601	545	488	512	469	496	506	483	502			510	
	並	平成27年	536	499	537	580	570	447	413	430	463	387	451	441		477	
		平成28年	437	520	556	504	465	466	431	450	463	436	460			470	
	等外	平成27年	369	377	390	398	379	327	311	318	298	260	279	312		334	
		平成28年	339	377	392	388	362	361	346	339	335	315	306			351	
	全体	平成27年	547	515	545	591	586	499	445	445	457	502	437	492	466		505
		平成28年	467	534	577	532	480	501	460	460	482	494	471	489			497

月平均は(総売上÷総重量)

(株)群馬県食肉卸売市場 肉豚課

JA前橋市



▲みそ作りに精を出す
女性大学生たち

3日間かけて
手作りしました ▶



みそ作りを学ぼう! 女性大学みそ作り講習会

JA前橋市は2月6日(月)から10日(金)にかけて、JA前橋市女性大学1期生みそ作り講習会を前橋市地産地消センター(前橋市富田町)で開催し、関係者含め24名が参加しました。女性大学は、地域住民との交流を通してJA事業・女性部活動に理解を深めてもらう事を目的に昨年8月10日に開校され、これが4回目の講義です。女性大学生は3班に分かれ、各班5日間のうち3日間みそ作りを体験。米麴と大豆を合わせて手作りする工程を学び、「普段、料理で使っているみそを作るのにこんなに手間がかかるとは思わなかった。」と感想を語りました。

JA佐波伊勢崎



▲ドラム缶で麦踏み

麦踏み合戦で農作業を体験

麦栽培に欠かせない「麦踏み」を体験するイベントが2月5日(日)、群馬県玉村町の麦畑で初開催され、県内各地から約90人が挑戦しました。名付けて「競技型農作業体験 麦踏み合戦」。競技として麦踏みを楽しく体験してもらいながら、麦への理解を深めてもらおうと、たまむら住民活動支援センターが主催、JA佐波伊勢崎が協力しました。当日は、JA玉村地区女性部が地元野菜をふんだんに使った上州名物おっきりこみを振る舞い参加者を応援したほか、特別賞としてJAより餅の郷うどんを贈呈しました。競技は3チーム対抗戦で、リレー形式の「二人三脚」「手押しローラー」「ドラム缶」の3部門を実施。会場は大いに盛り上がりました。



▲玉村地区女性部がおっきりこみを振る舞いました

JA太田市



▲ 参加した生産者と
JA関係者ら



こだま西瓜の試食配布は
大盛況でした ▶

小玉スイカ初出荷

JA太田市は3月1日(水)、東京都中央卸売市場に小玉スイカを初出荷し、トップセールスを行いました。当日は野菜センター運営委員会スイカ部会(部会長 永田智久さん)やJA太田市役職員らが参加。卸売業者らを対象に「藪塚こだま西瓜」の試食200食と特徴を書いたパンフレットを配りPRしました。

今年は糖度も約15度と例年を上回る出来となっており、塚越副組合長は「農家の人達が丁寧に育てています。ぜひ食べて美味しさを実感して欲しい。」と呼び掛けました。

今後はスーパーや百貨店等で試食を中心としたPR活動を展開し、7月末までに13万ケース(1ケース8kg)の出荷を目標にしています。

JA邑楽館林



▲ キュウリの価格低迷の
現状を説明する
全農ぐんま担当者

2月23日にはいち早く、
大田市場でパイヤーや
仲卸向けに試食宣伝を
実施しました ▶



キュウリ販売価格の低迷状況と 今後の販売情勢を協議

JA邑楽館林は、2月の販売実績で近年にない低価格で推移する本年産キュウリについて緊急の販売対策会議を2月17日(金)、JA本所で開きました。

緊急会議には、江森富夫組合長をはじめ、JA常勤役員と理事で構成する園芸小委員会、野菜出荷組合連絡協議会やJA青年部など各関係部会の代表者と重点市場3社など26名が参加。現状の価格低迷状況と要因、今後の販売情勢について協議しました。3月からはサラダ商材として量販店で売り場展開され引き合いが強まるため、荷動きを止めないよう特売を積極的に仕掛けていくことを確認しました。

花木流通センター便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！



▲高品質な苗を生産する国府果菜苗組合の皆さん

いよいよ本格的な春を迎え、花木流通センターでは、果菜苗の販売が開始されます。毎年お客様から好評の苗は80種類を超え、品質も県内屈指のレベルを誇ります。また、毎年新品種を導入しているので、今年は新たな野菜作りに挑戦してみたいかがでしょうか。初心者から専業の方まで、どなたでも満足できる売り場となっておりますので、ぜひ一度お越しください。皆様のご来店心よりお待ちしております。

4月の売出し・イベント案内

色々な売出しやイベントが目白押し。ぜひお出かけください！

開催日	内容
4月6日(木) 10:00~14:00~	花の寄せ植え講習会(春のバスケット) 【参加費・申込み方法等問合せ先：ふらわーらんど】
4月7日(金) ~10日(月)	菜園フェア
4月8日(土) 10:00~	栽培講習会(ナス・キュウリ・トマト) / 管理機取扱講習会 / みそ作り講習会 ／花の寄せ植え講習会(春のバスケット) 【参加費無料・申込み不要】
4月9日(日) 10:00~	栽培講習会(ナス・キュウリ・トマト) 【参加費無料・申込み不要】
10:00~	花の寄せ植え講習会(春のバスケット) 【参加費・申込み方法等問合せ先：ふらわーらんど】
4月14日(金) ~17日(月)	春本番園芸フェア
4月16日(日) 10:00~	栽培講習会(里芋・生姜) ／管理機取扱講習会【参加費無料・申込み不要】
4月23日(日) 10:00~	栽培講習会(ナス・キュウリ・トマト) ／管理機取扱講習会 【参加費無料・申込み不要】
4月29日(土) ~5月7日(日)	ゴールデンウィーク菜園フェア

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

暮らしをもっと やかに

KABOKU
花木流通センター

営業時間:年中無休/9:00~18:00

(節電のため7月~2月毎週火曜日定休)

取扱商品

■園芸資材館/営農・園芸資材等 ■ふらわーらんど/鉢花、花苗等 ■JA植木コーナー/緑花木、盆栽等 ■エクステージ/外構・造園工事等 ■ブランド野菜館/産直野菜、農産加工品等 ■外売場/野菜苗、大型肥料・用土、植木鉢等



お問い合わせ先

前橋市亀里町1307-1
TEL:027-220-2427
FAX:027-220-2424

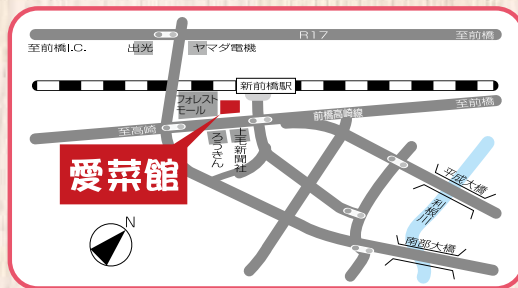
あさいろば
JA直販

愛菜館

営業時間:毎週火曜日定休/9:00~18:00

取扱商品

■産直野菜
農産加工品/店頭精米等



お問い合わせ先

前橋市古市町106-1
TEL:027-210-7788
FAX:027-210-9811

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

【あて先】

〒379-2147群馬県前橋市亀里町1310番
JA全農ぐんま「県本部通信」係まで
E-mail : info-gunma@gm.zennoh.or.jp
※JAメール等でも結構です。

プレートをキャンバスに見立てて
Art Cooking



Food adviser

石垣 恵美

1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。



エノキの クミン風味チキンサラダ

材 料

4人分

(1人分168cal)

えのき……………1袋
オリーブオイル…小さじ2
クミンシード…小さじ1
塩……………少々
鶏胸肉……………150g
クミンパウダー…小さじ1
塩……………少々
オリーブオイル…小さじ2
ワイン……………大さじ1
レタス……………100g
ベビーリーフ………1/2袋
人参……………30g

トマト……………1個

ドレッシング

ハチミツ……………小さじ1
レモン汁……………大さじ1.5
ワインビネガー……………大さじ1
A オリーブオイル……………大さじ1
クミンパウダー……………小さじ1
塩……………小さじ1/2

作り方

- 1 えのきは石づきを切り1cm幅に切る。オリーブオイルを熱したフライパンに入れ炒め、しんなりしたらクミンシード・塩を加える。
- 2 鶏肉は厚い部分を半分に切り広げ、クミンパウダー・塩を振り馴染ませる。オリーブオイルを熱したフライパンで、皮を下にして焼いてから反対側も焼く。焼き色がついたらワインを加えて蓋をし、弱火で蒸し焼きにする。焼き上がったらせん切りにする。
- 3 **A**の調味料を合わせ、ドレッシングを作る。
- 4 レタス・ベビーリーフは洗ってざく切りにする。人参はせん切りに、トマトは1.5cm角に切る。
- 5 お皿に**4**の材料とえのき・鶏肉を乗せる。**3**のクミンドレッシングをかけ、混ぜて食べる。